

第52回

朔太郎

忌

SAKUTARO-KI

第2部

第1部

◆リーディングシアター◆

「吾子よ」〜朔太郎を愛し続けた母ケイの物語〜

脚本・演出 生方保光 (劇団ザ・マルク・シアター)

出演 竹中直人・室井滋・柳沢三千代

萩原朔美・前原明博・山越勇武・中村ひろみ

見城由香・大島加代子・大島政昭

◆対談◆

朔太郎の母ケイの真実

出演 梯久美子・松浦寿輝

(ノンフィクション作家) (詩人・作家・東京大学名誉教授・萩原朔太郎研究会会長)

司会 藤井浩 (萩原朔太郎研究会幹事長)



ボクらはたよりない子どもだから

2024 5月11日(土)

会場：昌賢学園まえばしホール 開演：13時30分(開場：12時30分)

(前橋市民文化会館) 小ホール(客席600名 自由席)

チケット購入
申込方法

チケット 1,000円

(前橋文学館 観覧券1回分付)

販売・申込開始：3月22日(金)午前9時より

- ① 前橋文学館の窓口でチケット購入
 - ② 文学館ホームページ又は裏面QRコードより申込
 - ③ 前橋文学館へ電話(027-235-8011)申込
- ※②、③の場合、チケット代は当日窓口でお支払いください。

お問い合わせ

朔太郎忌実行委員会 (水と緑と詩のまち 前橋文学館内)

TEL：027-235-8011 FAX：027-235-8512

<https://www.maebashibungakukan.jp>

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10

主催 前橋市、朔太郎忌実行委員会 共催 (公財)前橋市まちづくり公社、萩原朔太郎研究会、前橋文学館友の会

後援 朝日新聞前橋総局、NHK前橋放送局、FM GUNMA、共同通信社前橋支局、群馬テレビ株式会社、産経新聞前橋支局、J-COM 群馬、時事通信社前橋支局、上毛新聞社、高崎前橋経済新聞、

東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、(公財)前橋観光コンベンション協会、まえばしCITYエフエム、前橋商工会議所、読売新聞前橋支局

協賛 群馬詩人クラブ、群馬ペンクラブ

Illustration & Design studio vision Tatsushi Ishiro

詩人・萩原朔太郎が亡くなったのは、1942(昭和17)年5月11日でした。朔太郎の生誕の地前橋では、例年命日に合わせて近代詩史に大きな足跡を残した朔太郎を偲ぶ「朔太郎忌」を開催しています。

今回は、いままで語られてきた内容と異なる視点で朔太郎の母ケイの生涯に焦点を当てます。第1部では新作のリーディングシアターを公演、第2部ではノンフィクション作家、梯久美子氏をお招きし、松浦寿輝氏(萩原朔太郎研究会会長)と対談していただきます。

リーディングシアター

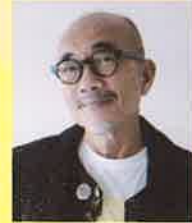
第1部 「吾子よ」～朔太郎を愛し続けた母ケイの物語～

脚本・演出：生方保光(劇団ザ・マルク・シアター)

出演：竹中直人 室井滋 柳沢三千代
萩原朔美(前橋文学館館長) ほか

息子への愛と希望と願いを母ケイの視点からとらえた、朔太郎とその家族の物語。長男として生まれた朔太郎に期待をかける父密蔵は、母ケイに「惣領としてしっかりと育てるように」と育児を託す。密蔵とケイは、朔太郎が兄のように慕っていた甥の栄次を呼び寄せ、密蔵の病院の手伝いをさせる傍ら、朔太郎の遅れがちな勉強を補わせた。

しかし、朔太郎は短歌や音楽、宗教など、多くの影響を栄次から受けていき、高等学校受験の失敗や入学後の落第など、ますます生き方に迷走していく。そのたびにケイは、朔太郎の悩みを理解し解消しようと悩み、もがき苦しむ。やがて、文学の道をやっと見つけた朔太郎が、結婚や育児、離婚などの経験をしていく姿に、母ケイは、ただ寄り添い応援し続けていく術を知ること。そして、それは孫の葉子へ……。



竹中直人



室井滋



柳沢三千代



萩原朔美

第2部 対談「朔太郎の母ケイの真実」

司会：藤井浩(萩原朔太郎研究会幹事長)



松浦寿輝
まつうら ひさき

作家・詩人・批評家。萩原朔太郎研究会会長。東京大学名誉教授(フランス文学・表象文化論)。日本芸術院会員。1954年東京都生まれ。東京大学大学院仏語仏文学専攻修士課程修了。詩集に『ウサギのダンス』『冬の本』(高見順賞)『鳥の計画』『吃水都市』(萩原朔太郎賞)『afterward』(鮎川信夫賞)『秘苑にて』など。小説に『花腐し』(芥川賞)『半島』(読売文学賞)『そこでゆっくりと死んでいきたい気持をそそる場所』『川の水』『名誉と恍惚』(谷崎賞・ドゥマゴ文学賞)『人外』(野間文芸賞)『無月の譜』など。エッセイ・評論に『折口信夫論』(三島由紀夫賞)『エッフェル塔試論』(吉田秀和賞)『知の庭園 一九世紀パリの空間装置』(芸術選奨文部大臣賞)『明治の表象空間』(毎日芸術賞特別賞)『黄昏客思』『わたしが行ったさびしい町』など多数。



梯久美子
かけはし くみこ

ノンフィクション作家。1961(昭和36)年、熊本市生まれ。北海道文学部卒業後、編集者を経て文筆業に。2005年のデビュー作『散るぞ悲しき 硫黄島総指揮官・栗林忠道』で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。同書は米、英、仏、伊など世界8か国で翻訳出版されている。著書に『昭和二十年夏、僕は兵士だった』、『昭和の遺書 55人の魂の記録』、『百年の手紙 日本人が遺したことば』、『狂うひと』『死の棘』の妻・島尾ミホ(読売文学賞、芸術選奨文部科学大臣賞、講談社ノンフィクション賞受賞)、『原民喜 死と愛と孤独の肖像』、『サガレン 樺太ノサハリン 境界を旅する』など。2022年刊行の『この父ありて 娘たちの歳月』では、(書く女)としての萩原葉子から見た父・朔太郎を取り上げ、葉子にとっての祖母であるケイにも言及している。

松浦寿輝 × 梯久美子

ボクらはたよりない子どもだから

チケット
申し込み方法 ② <朔太郎忌申込サイト>
右のQRコードを読み取り、必要事項に記入のうえお申し込みください



※お申込完了の返信メールは届きません。お申込みの際に、申込み完了ページのスクリーンショットをとっていただくか印刷してご確認ください。

- ・3月22日(金)午前9時より受付開始。・座席指定はできません。
- ・チケットの引き換えは、当日12時から昌賢学園ホール2階のチケット売り場(小ホール階段上)で1,000円(現金のみ)と引き換えます。
- ・チケット半券は、2024年5月26日(日)まで前橋文学館観覧券としてご利用になれます。(当日午前中に前橋文学館を観覧されたい場合は、あらかじめ電話にてお知らせください)
- ・申込後のキャンセルは前橋文学館までお電話ください。
- ・イベント中止の場合は前橋文学館にて払い戻しをいたします。



○会場アクセス
昌賢学園まえばしホール
(前橋市民文化会館)
〒371-0805 群馬県前橋市南町三丁目62-1

詳細は昌賢学園まえばしホールHPをご確認ください。
<https://www.maebashi-cc.or.jp/maebashishibun/access>

アクセス(交通案内)
電車 JR両毛線・前橋駅南口から徒歩8分
自動車 関越自動車道・前橋ICから車で20分
※駐車場は詰込みとなります。お早めにお越しいただくか、公共交通機関をご利用ください。